

微力であっても無力ではない。 Piece (ひとかけら)を集めてPeace(平和)を実現

～かわいそうだからではなく魅力を発信する支援の在り方を学ぶ～

NPO法人 Piece of Syria 代表理事 中野 貴行 氏



Profile

大阪生まれ。

2008～2010年 青年海外協力隊としてシリアで過ごす。

2016年5月 Piece of Syriaを設立。

ドバイでの日本企業進出サポート業務を行う日本企業駐在員、トルコでのシリア難民支援NGOの短期専門家を兼務。

2021年7月 NPO法人化

シリアはかつて高い教育水準を誇る 平和で安全な国であった

「シリアってどんな国だと思いますか？」中野氏の問いかけから話は始まりました。

戦争、テロ、難民、危険なところ。そんなイメージを中野氏は一つひとつ覆します。中野氏が住んでいた2008年から2010年のシリアは、豊かな歴史から世界遺産も多く、文化色も非常に豊かな国でした。Free Wi-Fiは日本よりも整っており、教育面では大学まで無料。就学率も99.6%でした。物価も安く、自給自足率は100%。落とし物はすべて戻ってくる、夜も一人で歩けるなど、日本以上に治安がよかったそうです。

究極のおもてなしの文化

家に泊めてもらうこと、ご飯をごちそうになることは日常茶飯事。そのさなか東日本大震災と同じ2011年3月、シリアで戦争が勃発しました。

後に、トルコで出会ったシリア人と食事をした際は、彼は難民でありながら、中野さんにお金を払わせようとはしなかったそうです。なぜなら君はゲストだからという理由でした。日本もインバウンド全盛期ではおもてなしの国と言われていましたが、シリアの人のおもてなし精神はその比ではなく、その元になっている部分は豊かな国民性と質の高い教育も関係しているのではないかと感じました。

教育についての思い

想像できるでしょうか。自分の母校の校庭が、ある日突然に公開処刑場になったとしたら。

戦争で心に傷を負った子どもたちにできること、そしてかつての平和で安全なシリアに戻すためには、その一歩は教育だと中野氏は確信しています。かつて99.6%もあった就学率が6%になっている地域もありました（現在、1/3の子どもが学校に行けていません）。中野氏は、シリア国内で無給でも幼稚園・学校で働いている先生への給与、トルコで難民として生活し母国語でない授業をうけているシリア人の子どもたちの補習校開設支援を行っています。



出会った一人の少女の夢に寄り添いたい。無邪気な子どもたちの笑顔を決やさず、夢を持ち続けてもらいたいと願っています。

教育と一口に言ってもいろいろな学びがあります。数学の方程式や英語の文法を習うだけが教育ではありません。Z世代が社会活動に関心があるのも学校での教育が関係しているのではないのでしょうか？

人間の豊かさを学び、夢を持つこと。これはいくつになってもできることだと強く思いました。我々も新たに学んでいく時かもしれません。

企業連携の可能性

中野氏の今後の野望は、企業との連携です。我々中小企業もSDGsの取り組みや社会活動を積極的に行う時期にあります。現在アフリカに滞在している中野氏は、家電などの日本製がどんどん中国や韓国製に変わってきているのを感じているそうです。それは価格だけでなく、世界で活躍する日本人が少ないために日本製品を購入する機会が少なくなってきたのではないかと考えています。取材に参加した会員からも「若い社員の中でも夢を持っていない人が多い」との意見がありました。そして海外に行きたがらない若者も増えています。しかしもっと日本の若者にも世界に飛び出して、世界を自分の目でみてほしいとも中野氏は話していました。

日本は、寄付などには後進国だと言われています。今回の取材を通して、一人の日本人が平和を奪われた国やその子どもたちのために尽力している姿を少しでもお伝えできればと思っています。そして中野氏のもう一つの夢である「平和なシリアを皆さんに案内すること」に便乗していつかシリアに行ってみたい。そう感じた取材でした。

※Piece of Syria 公式サイト

<https://piece-of-syria.org>

日中経済交流研究会 広報委員会

文：南陽トレーディング株式会社 里深陽子